

第58回全国高等学校軟式野球選手権大会 視察報告

上田高等学校
軟式野球班 監督 小木曾 一希

0. はじめに

今回、第58回全国高等学校軟式野球選手権大会を視察させていただける機会をいただき、関係者の皆様には大変感謝申し上げます。今回の視察でより広く、長野県軟式野球の発展に貢献できるよう、このレポートを作成いたします。

1. 日程

第58回全国高等学校軟式野球選手権大会

1日目 8月25日(日) 開会式、1回戦・・・雨天順延

2日目 8月26日(月) 開会式、1回戦(25日予定分)

2. 第一試合 土浦日大 vs 神戸学院大学付属

開会式直後ということもあり、観客席は多くの観客がいた。神戸学院大学付属は、地元ということもあってか、吹奏楽、チア等の生徒もかけつけており、かなりの人数の応援団となっていた。土浦日大も保護者を含め、2,30人の応援団がスタンドで盛り上げていた。

試合前は、キャッチボール(後攻)・素振り(先攻)をベンチ前にて全員で行っている。この統一感は大切である。10時20分に始球式(中学地区大会優勝投手)を行い、試合開始となった。

土浦

キャッチボール時、塁間でタッチの動作を組み込んだクイックを行うなど、工夫していた。シートノックを背番号11の選手が打っており、試合中も選手がサインを出しているようであった。監督らしき人はいるようであったが、ほとんど指示を出している動きは見られなかった。

- 1 石野 2
- 2 岩淵 5
- 3 西坂 4
- 4 日笠 7
- 5 新井達 3
- 6 神長 9
- 7 堺 8
- 8 久米 6
- 9 新井貴 1

新井貴(先発)右上

ストレート 130 前後、変化カーブ切れあり、スライダーあり。
変化でもストレートでもカウントを稼げる。とにかく常にストライク先行。
決め球としては、前半変化、後半ストレートの割合を増やす組み立て。

神院大付

シートから、よく声が出ていて、試合中の移動等もスピーディであった。

- 1 富森 6
- 2 武田 4
- 3 関 2
- 4 桑田 3
- 5 樽本 8
- 6 塩津 7
- 7 木田 9
- 8 西脇 1
- 9 宮脇 5

西脇(先発)右上

ストレート 120 台、ストレートは高めに浮くことがあり、前半は変化球に頼る。
変化でカウント稼げるので、初球変化は多かった。後半、ストレートもやや安定。
しかし、ストレートが高めに浮くのはなくなかった。

試合経過

1 回表(3:15)

- ①1-2 ショートゴロ
- ②2-1 ライトフライ
- ③2-2 サードフライ

1 回裏(4:52)

- ①2-1K
- ②2-0K
- ③2-2 センター前
- ④1-1③単独スチール TO

2 回表(3:38)

④2-1K

⑤0-1 ファーストファールフライ

⑥2-3 セカンドゴロ

2 回裏(8:03)

④2-2K

⑤0-0 サードゴロ送球 E、⑥時スチール

⑥追い込まれるまでバントの構え、2-0 エンドラン(カットで粘っていて)、2-0 エンドラン K

⑦2-2K

3 回表(7:46)

⑦2-2K

⑧1-1 ライト前

⑨0-0 バント失敗サードフライ①2-2 時ボーク進塁

①0-1 エンドランファール、1-2 バントエンドランファール、2-3K

3 回裏(3:07)

⑧2-1 サードフライ

⑨1-1 ファーストゴロ

①2-1K

4 回表(8:05)

②0-0 レフト線:高めストレート③時進塁④0-0 捕逸進塁、④スクイズ失敗で挟まれるが送球逸れる間に生還

③2-1 ショートゴロ

④0-1 スクイズ引いてしまう、0-2 サードゴロ

⑤2-3K

4 回裏(9:15)

②0-0 ファーストファールフライ

③0-0DB④時 0-1 ワイルドピッチで進塁

④0-2 セーフティファール、2-3B

⑤0-0 送りバントファール、0-1・1-1 バントの構え、2-1K

⑥2-0 ショートゴロ

5 回表(4:08)

⑥1-0 センター前:緩い変化⑦時エンドランスチール TO

⑦0-0 バントの構え、1-0 エンドラン外され空振り、2-3 ショートゴロ

⑧2-2 センターフライ

5 回裏(4:07)

⑦1-0 セカンドフライ

⑧2-1K

⑨2-2K

6 回表(9:37)

⑨1-0 セカンドゴロ

①1-3DB②時進塁③2-1 時牽制後逸進塁③時生還

②0-0・0-1 バントの構え、2-2 エンドランサードゴロ:内角ボール

③2-1 ショートゴロ送球 E

④0-0 ショートゴロ

6 回裏(3:13)

①2-1K:初球スローボールから

②2-1 レフトフライ

③2-2K

7 回表(3:07)

⑤2-3 ファーストファールフライ

⑥1-1 ピッチャーゴロ

⑦2-0K

7 回裏(9:25)

④2-2 レフト前:ストレート⑤時 TO

⑤0-0 バントファール、1-1 エンドランピッチャーゴロ入れ替わり⑦時 3 塁へ

⑥0-0 サードファールフライ

⑦1-1 エンドランレフト前→送球間に 2 塁へ

⑧0-3B

⑨DH 山本翔理 2-1K

8 回表(3:42)

DH 山本翔理→5 杉浦

⑧1-1 サードライナー

⑨2-1 サードゴロ

①2-1 ショートゴロ

8回裏(3:21)

①2-0K

②2-0 セカンドゴロ

③2-0 ショートフライ

9回表(2:20)

②2-1 サードゴロ

③0-0 ファーストゴロ

④1-0 ファーストフライ

9回裏(6:05)

④2-0 センターフライ

⑤2-1 サードゴロ送球 E

⑥DH 山本翔太 2-1K

⑦2-1K

10:20～12:19

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
土浦日大	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
神院付	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

同系統の投手の投げ合いとなった。コントロール、球威ともに土浦日大の投手のほうがわずかに上手だったように思える。中盤の2点はともにエラー絡みである。投手戦になればなるほど、エラーでの失点は重くのしかかる。

3. 第二試合 秋田商業 vs 福岡大大濠

両チーム、応援は2, 30人規模。保護者を中心とした応援団のようであった。

秋田商業

シートノックで、内野ボール回しの上を外野ノックしていた。軽くフライを打っているようであったが、それほど効率のよいノックになっているとも思えない。

1 前田 5

2 奥田 6

3 小野寺 1

4 今川 2

5 佐々木 8

6 石川 9

- 7 秋元 3
- 8 菊池 4
- 9 水澤 7

小野寺(先発)右横下

一旦上体を沈み込ませてから、少し体を起こしながら大きく横から投げる。

ストレートは 120 前後で、緩いスライダー、スライダー、シンカー系の落ちる変化もあるように見えた。非常にテンポが早く、コントロールがいい。

大濠

エースを中心にまとまりがあるチーム。

- 1 山下 6
- 2 下川 43 菊池 2
- 4 松江 3
- 5 中村 5
- 6 前田 7
- 7 長郷 8
- 8 猪俣 1
- 9 後藤 9

猪俣(先発)左上

初回こそ最初ボール先行したものの、2回以降はコントロール抜群、常にストライク先行であった。120 前後のストレートを主体とし、カーブを混ぜる組み立てであった。

試合経過

1 回表(3:15)

- ①2-3K
- ②2-3K
- ③2-1K

1 回裏(2:34)

- ①2-1K
- ②1-1 ピッチャーゴロ
- ③2-2 セカンドゴロ

2 回表(2:30)

④1-0 ファーストファールフライ

⑤2-2K

⑥2-0 センターフライ

2 回裏(1:34)

④2-0K

⑤1-1 サードゴロ

⑥2-1 ファーストファールフライ

3 回表(4:24)

⑦0-0 ファーストファールフライ

⑧2-2K

⑨2-0K

3 回裏(5:23)

⑦2-1 サードゴロ送球 E⑨0-0 時キャッチャー牽制 TO

⑧0-0・0-1・1-1 バントの構え、2-1 バントからバスターピッチャーゴロ内野安打

⑨0-0 バント失敗空振り、1-0 バントの構え、2-0K

①0-1 サードゴロ

4 回表(2:54)

①2-2K

②0-0 キャッチャーフライ

③2-1K

4 回裏(4:47)

②0-0 セーフティキャッチャーH⑤0-1 時キャッチャー牽制 TO

③0-0 バントピッチャー前成功

④2-0K

⑤0-1

5 回表(5:02)

④2-3B⑤時アウト

⑤0-0 バント空振り、0-1 バントファール、2-1 ピッチャーゴロ入れ替わり⑥1-2 時エンドラン失敗挟殺

⑥1-2 エンドラン空振り、2-2 レフトフライ

5 回裏(6:28)

⑤1-1 レフト前⑧エンドラン時挟殺

⑥0-0 エンドランピッチャーE

⑦0-0 バントファール、1-0 バントピッチャー前成功

⑧2-1 エンドラン空振り K

6 回表(2:56)

⑦2-0 ファーストファールフライ

⑧2-3K

⑨2-0K

6 回裏(2:12)

⑨2-2K

①1-1 ライトフライ

②1-1 ファーストライナー

7 回表(5:26)

①0-1 ファーストフライ

②0-3B 左右交互で打席に③時進塁④1-1 時スチール④2-2 時ホームスチール TO

③0-0 バントファール、0-1 バントピッチャー前成功

④

7 回裏(5:37)

③2-3 センター前⑦初球ダブルスチール TO

④0-0 バントの構え、1-0 ヒッティング、2-0DB

⑤0-0～1-3 バントキャッチャーフライ

⑥0-0 ライトフライ

⑦

8 回表(8:35)

④1-3B

⑤0-0・1-0・1-1 バントの構え、2-1 ライトフライ

⑥2-1K

⑦2-3B

⑧2-0K

8 回裏(1:32)

⑦1-0 セカンドフライ

⑧1-1 セカンドゴロ

⑨2-0K

9 回表(1:46)

⑨2-0K

①1-1 セカンドゴロ

②2-1K

9 回裏(1:53)

①1-2 ピッチャーゴロ

②1-1 セカンドゴロ

③2-1K

10 回表(2:20)

③1-0 センターフライ

④1-0 ショートゴロ

⑤0-3B

⑥1-0 センターフライ

10 回裏(3:09)

④2-2 レフトフライ

⑤2-2 ショートゴロ

⑥1-1 ショートゴロ

11 回表(2:34)

⑦1-0 キャッチャーフライ

⑧2-2K

⑨2-0 ファーストファールフライ

11 回裏(2:41)

⑦2-2 セカンドゴロ

⑧2-1 ピッチャーゴロ

⑨0-0 セーフティバントキャッチャーゴロ

12 回表(6:29)

①2-2 ショートゴロ

②2-3B④1-0 時スチール

③0-0 バントの構え、1-0 バントファール、2-0 センターフライ

④2-0K

12 回裏(3:03)

- ①2-0K
- ②0-0 ショートゴロ
- ③2-0 左中間二塁打
- ④0-1 サードゴロ

13 回表(5:49)

- ⑤2-2 レフトオーバー二塁打
- ⑥0-0 バント失敗入れ替わり⑦エンドラン&送球間に三塁へ
- ⑦0-0 エンドランピッチャーゴロ
- ⑧1-2 サードゴロ E
- ⑨2-0 ファーストフライ

13 回裏(2:29)

- ⑤1-0 サードゴロ
- ⑥2-2 ショートゴロ
- ⑦2-0 ショートフライ

12:59～15:06

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	計
秋田商	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
大濠	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

右横手と左上という異なるタイプのピッチャーであったが、コントロール、スタミナともに能力が高く、緊迫した投手戦となった。大濠こそ、12回まで秋田商業をノーヒットに抑えていたものの、1本の長打とエラーで1点を献上し、それが決勝点となった。

4. まとめ

- ・行動面：ピッチャーのテンポが速いので、試合はスピーディに進むが、それ以上に攻守交代や、あらゆる面での準備が素早く、それを自分たちのリズムとして野球をしていた。
- ・シフト面：内野の守備位置はほとんど変わらない。ランナーが出てても特に大きな違いはない。しかし、外野は基本的に奥を守っており、ライトゴロより、長打一本防ぐという意識であった。点の入らない、高いレベルでの考え方が。
- ・戦術面：盗塁、バント、エンドラン等、基本的な戦術を使っている。少ないチャンスに確実に決められるかが勝負の分かれ目だが、まだまだミスも目立ち、全国レベルでもつけている隙はありそうである。
- ・守備面：得点には確実にエラーが絡む。今回の試合で言えば、100%であった。
- ・投手面：今回は4チームとも絶対的エースのいるチームであった。その存在は大きい。
- ・体力面：1試合全力で動ききる体力が必要。全国レベルはよく鍛えられている。